

76 和牛繁殖経営の多様な展開方向

福島県農業試験場経営部・平成12年度農業試験場試験成績概要

- 1 部門名 畜産－肉用牛－畜産経営 分類コード 07－01－49000000
2 担当者 新田耕作・鈴木久雄
3 要 旨

(1)飼養頭数が6頭の農家(A)では、複合部門として果樹(加工用モモ)を導入していたが、高齢のため労働集約的な果樹の生産を縮小した。また、自給飼料面積は40aと脆弱であるため、購入粗飼料に依存していた。

(2)飼養頭数が12頭の農家(B)では自給飼料面積が590aと最も大きく、雌牛1頭当たりは49.2aの飼料基盤を確保することで粗飼料の完全自給を実現していたが、複合部門としての水稻作付面積は80aと少なく、所得の確保のため農外へ就労した。

(3)飼養頭数20頭以上の農家4戸のうち3戸(D、E、F)では、粗飼料生産基盤の脆弱さと飼養管理に伴う労働負担を解消するため、遊休桑園を活用し放牧利用を行った。そのうち2戸(E、F)では、公共牧場の利用もっており放牧の経営的位置付けが大きく、より省力的な放牧を選択することで飼養頭数の拡大を図った。また、これらの放牧を行っている農家では複合部門として労働生産性が高くかつ飼料としてワラ利用が可能な稲作の規模拡大を選択した。対照的に、複合部門として葉たばこを導入していた農家(C)では、放牧による省力化をせず、受精卵移植及び優良雌牛の導入、舎飼による集約的な飼養管理を行うことで、高い子牛販売価格を実現していた。

以上、和牛繁殖経営においては、飼養規模、経営構造の違いにより異なる経営的特徴が認められた。特に、飼養頭数が20頭規模の畜産経営では、労働負担の軽減と飼料基盤の脆弱さを解消するために遊休桑園を活用し放牧を導入した事例、集約的な飼養管理を選択した事例等多様な展開方向が見られた。